

人間社会学部 スポーツ科学科 専門教育分野 TLO : Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 等	単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・健康に関するデータを収集、分析し、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技術や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスの向上を目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度・論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。
学科間共通専門科目	基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	○	アスリート(またはスポーツ選手、競技者など)の基礎となるコンディショニング技術・戦術などに関する個人研究または共同研究を行うための基礎力を身に付ける。	研究や課題を実施するための計画(テーマ設定、研究方法やデータ解析の方法の選択など)を立案することができるようになる。	研究、調査、実験、共同作業		◎	○			
	専門演習	M-SEM301	300	演習	2	○	研究テーマを設定し、研究計画の立案、研究の実施を通して、スポーツの基礎となる身体・心理・栄養・技術・戦術に関する具体的な問題解決のスキルや考える力、アウトプット力を身に付ける。	アスリート(またはスポーツ選手、競技者など)のコンディショニング技術・戦術に関する問題を見つけ出し、具体的な課題として設定し、解決できるようになる。また、研究を実施する際に必要となる倫理についての知識を身に付け、人権やモラルについて考えることができるようになる。	問題発見、課題設定、研究、調査、実験、倫理		◎	○	◎	○	
	卒業研究	M-SEM401	400		2	○	専門演習における研究成果を論文などの形式でアウトプットすることを通して、社会で求められる調査・分析・報告といったスキルに関わる総合的な学力を高める。	選択した方法論に基づいて得られた成果を、論文や制作物等の形で表現することができるようになる。	卒業論文、卒業制作、アウトプット		◎	○	◎	○	
	教育原理	T-EDU108	100	講義	4		「教育とは何か」に視点を置きながら、教育の理念、思想、歴史等について基礎的な知識を網羅的に学修する。	1. 教育の理念や目的を理解している。2. 教育の歴史や思想を理解している。3. 学校教育や社会教育等に関する基本的事項を理解できる。	教育の理念、教育の目的、教育の思想、教育の歴史、学校制度、生涯学習			○	◎		
	教育相談	T-EDU109	100	講義	2		教育相談を心理臨床学の視点からとらえ、基本的な理論及びその実践を学修するために、多くの事例を取り上げる学修する。	実践的かつ理論的な対応法は、基礎的・体系的な知識を欠くことが出来ないで、心理臨床学に裏打ちされた教育相談の基本を体系的に修得できる。	教育相談、こころの構造、いじめ、アセスメント、カウンセリング、こころの病理、発達失調、登校拒否						
	社会福祉概論	M-SWS101	100	講義	4		子どもや高齢者、障害のある人などすべての人たちの尊厳が守られ、安心して生活できる地域や社会の創造に向けて社会福祉の果たす機能や役割など、基本的な知識を学修する。	社会福祉の概念や定義を理解する。その上で、社会福祉の様々な分野や関連する施策、制度、サービスについて理解を深めることができる。	社会福祉の概念、歴史的展開、権利擁護、社会福祉の理論、社会政策の基本的な視点、福祉サービスの供給と利用の過程						
	子ども家庭福祉	M-SWS222	200	講義	4		子どもや家庭を取りまく地域や社会の現状を理解し、子どもが健やかに育ち、その尊厳と権利が守られる社会の実現に向けた子ども家庭福祉の全体を学修する。	子どもや家庭を取り巻く社会環境や、現代社会の子ども・子育て・子育てへの影響を理解できる。その上で、子ども・家庭への支援や施策、法制度などについて理解できる。	子どもの権利、子どもと家庭・地域、子ども・子育て支援の諸施策、児童虐待防止、社会的擁護、制度・サービス						
	医療社会学	M-SOC311	300	講義	4		医療の社会的役割や影響力、またその変容について、さまざまな角度からクリティカルに考えていく。	医療社会学において論じられている具体的な事柄について考えるための方法とスキルを身につける。	医療社会学、健康と病の経験、病人役割、感染症と社会的排除、優生思想、専門家支配						
	教育心理学	T-EDU110	100	講義	4		教育場面に關わる心理学として4つの柱(発達、学習、測定・評価、人格・臨床)を中心に学ぶ。教職必修科目。	子どもや保護者の心理、学習や記憶のしくみを理解し、どのように教育評価を行ったか、生徒に接するべきかについて理解を深めることができる。	生涯発達、学習・記憶、教育評価、知能指数、発達障害、カウンセリングガイダンス						
	発達心理学	T-PSY101	100	講義	4		乳幼児期から老年期のころと身体発達の各時期で遭遇する問題とそれらへの対処法を学ぶ。	人間発達の特長性と、乳幼児期から老年期の各段階ごとの発達課題と生じやすい問題、病理的特徴を理解できる。	生涯発達、家族関係、アタッチメント、認知発達、発達障害、介護、虐待						
対人関係論	M-PSY207	200	講義	4		対人場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	対人場面における人間の心理行動を社会心理学の見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性							

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	科目種別	ナンバリング	講義演習実習等	単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー						
								授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつづるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
											身体・心理・栄養・技術・職能に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象から科学的に理解している。	スポーツ・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するためのコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能に多様な方法を用いて、様々な専門家と協働してアスリートへの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスの向上を目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度、論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。	
	社会心理学	M-PSY202	200	講義	4			多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学的見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性							
	スポーツの歴史と文化	M-SOC209	200	講義	4	○		スポーツを一つの文化として捉え、それが近現代社会のなかでどのような歴史を経て人びとに受け入れられてきたかを理解し、そこから自分の言葉で今後のスポーツのあり方を考えていくことができるようになる。	近現代社会において、スポーツがいつ頃からいかに受容されたのか、その過程でどのような軋轢や抵抗、また進歩や発展が示されたのか、従来からある価値意識とどのように融合してスポーツが展開してきたのかを理解し、それを踏まえて、将来のスポーツのあり方を自分で考えられるようになる。	スポーツ、遊び、祝祭、歴史、日本近代史、日本現代史、社会史、近代化、社会変動、社会構造、文化、規範、価値意識。			○	◎			
	スポーツ心理学 I	M-HES112	100	講義	2	○		学校教育における体育・運動、競技スポーツやレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動やスポーツ、および日常生活での運動行動などについて心理学的観点から学修する。	スポーツの心理面への影響、運動学習のメカニズム、運動による健康の増進、競技者の心理などの理解を通して、心理学的観点からスポーツをより深く理解できるようになる。	運動と知覚、運動の学習と指導、スポーツと動機づけ、スポーツの社会心理、運動行動の変容、競技心理、メンタルトレーニング、スポーツ臨床			◎	○		○	
	パラスポーツ論	M-HES358	300	講義	2	○		本講義では、多様な障がいを持つ人々によって行われているパラスポーツの実態について学ぶ。また、障がいのスポーツ活動に伴う様々な問題をスポーツの特性と社会的な視点を絡めて考察する。さらに複数のパラスポーツを実際に体験することを通じて理解を深め、障がいを持つ人のスポーツ活動を指導、支援する資質を習得することを目的とする。 ※担当教員は身体障害者のリハビリテーションセンターと精神科病院の双方で、運動療法やレクリエーション指導の経験を持つ。その実務経験で得た知見をもとに障害を持つ人の多様性や実態を紹介することで学生諸君の理解を深めたい。	・様々な障がいの種類と、スポーツ活動実践に伴う課題を理解する。 ・パラスポーツに関する問題を社会的な視点から説明できる。 ・障がいの特性に応じて考案されたスポーツのルールと、その基本的な考え方を説明できる。 ・パラスポーツの実践を通じ、障がいを持つ人と共にスポーツを行なえる資質を養う。	障がいのスポーツ ノーマライゼーション、多様性 パラスポーツ実習				○	○	○	
	人間社会学部特殊講義 A	M-OAR314	300	講義	2			学部判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(15回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる	主題別			○	◎	○		○
	人間社会学部特殊講義 B	M-OAR315	300	講義	4			学部判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(30回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる	主題別			○	◎	○		○
	身体づくり運動(保健教職)	M-EDU206	200	講義	2			教員免許状(保健体育科)取得を目指す学生を対象とし、授業者および学修者の両視点から実技授業をつくって、教えて、学ぶ。	指導イメージを身に付ける。自己の指導上の課題を発見する。自己の役割や責任を果たし、グループで合意形成を図りながら協力して進める。	保健体育教師、資質能力、よい指導、グループワーク、アクティブラーニング			◎	◎	○	○	
	学校インターンシップ I	M-EDU207	200	実習	2			実地活動を通じて学校現場や教師の仕事の実際に触れ、自己の適性や教職生としてこれから必要な学び、身に付けなければならない課題(知識・技術)等の理解と自覚を促すとともに、履修者の教職に対するモチベーションを高めることを本科目の目的とする。	1:児童生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握している。2:年間を通して担当教員等の補助的な役割を担うことで、学校現場の実態を広く理解している。3:体験的な活動を通して、教職への自己の適性や今後必要な知識・技術等への課題を自覚している。	・実体験型の学修 ・自己適性への省察 ・現代の子どもの理解				◎		○	
	学校インターンシップ II	M-EDU308	300	実習	2			学校現場での実地活動を体験し、学習指導、生徒指導、学級経営等の実際をより深く理解させる。あわせて教育実習に臨む意欲や態度を増やるとともに、教育実習実施までに修得すべき知識・技能等の自己課題を自覚させることを本科目の目的とする。	1:学習指導に必要な基礎的知識・技術等を実地に即して身に付けている。2:適切な場面におけるIT機器の活用など実際の実地活動を通して理解している。3:特別な配慮を要する子どもへの指導等について、体験を通して理解している。4:学級担任の役割や職務内容等を実地に即して理解している。	・実体験型の学修 ・教職へのモチベーションの向上 ・学校現場全般への基礎的実践知識の修得				◎		○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 ゼミ など	単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指すし、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象の原理原則に活用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要とされるコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスの向上を目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度、論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。	
学校インターンシップⅢ	M-EDU402	400	実習	2		大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等(教育実習での成果・課題を含む)と実地活動での体験を往還的に結び付け、教員として必要とされる必要最適限の力量を形成する。あわせて、大学卒業後、教員として遵守すべき職務や学校実務を忠実に即してより深く理解するとともに、積極的に社会に参画する意欲・態度等を培うことを本科目の目的とする。	1.教科に関する最新の知識や教授方法等を修得し、学校現場での活用方法等について理解している。 2.教員の使命や役割、遵守すべき法令等を深く理解している。3.専門的職業人として積極的に社会に参加する意欲や態度が身に付いている。	・実習体験型の学修 ・学校現場全般への応用的実践知識の修得 ・学問知と実践知識の往還を通じた確かな教員像の確立								
衛生・公衆衛生学	M-HES304	300	講義	2	○	社会や環境とヒトの健康の保持増進との関わりについて学修する。	身近な環境問題と健康、生活習慣病や高齢者問題、人口問題と医療費、学校や地域、職域における健康づくりの現状について理解できる。	健康、環境、社会、人口、医療、保健								
解剖学	M-HES110	100	講義	2	○	ヒトの筋骨格系、脳神経系、呼吸循環系の形態や構造を学び、正常な人体の構造について学修する。	筋骨格系、脳神経系、呼吸循環系に関する人体の基本的な構造について説明できる。	人体の構造・形態、筋肉、骨、脳と神経、肺、心臓と血管系	◎	◎						
応用スポーツ医学ⅠA	M-HES245	200	講義	2	○	現在の運動疫学及び国の健康づくり施策、運動基準や運動指針について学んだ後運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について学修する。	現在の運動疫学及び国の健康づくり施策、運動基準や運動指針について学んだ後運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について習得する。	生活習慣病、介護予防、健康づくり、メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧、脂質異常症			○	○				○
応用スポーツ医学ⅠB	M-HES246	200	講義	2	○	生活習慣病予防と運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について学修する。	幅広い年代の健康づくりのための運動の実践やハリスクワを対象とする安全な運動指導に関する幅広い知識の理解。また、生化学検査結果の見方理解できる。	糖尿病、ロコモティブシンドローム、健診結果の読み方、内科的障害、外科的障害、虚血性心疾患、運動器退行性疾患			○	○				○
救急・応急処置	M-HES343	300	講義	2	○	集団が集まる場所で発生する事故や病気が対処する救急・応急処置の知識と実践を学修することを目的とする。	急性障害や急性疾患に対する対応と処置の仕方、及び一次救命処置についての理解と実践を身につける。また、現場における救急対応計画について理解できる。	心肺蘇生法、AEDによる除細動、気道異物除去、三角巾による固定法、頭頸部外傷への対処、搬送法			◎		○			
体力測定評価	M-HES226	200	講義	2	○	体力・運動能力測定の意義と測定種目および方法、結果の評価方法について学修する。	体力・運動能力測定の意義と手法を理解し、安全で正確な測定法とその評価法を身につける。	体力、運動能力、体力測定法、体力評価法、運動能力測定法、運動能力評価法			◎					
スポーツ産業論	M-HES248	200	講義	2	○	スポーツ産業は用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディアなど多岐にわたる。スポーツ用品産業(事業戦略、マーケティング)、生体、販売促進、営業(販売)活動における基本的な流れを学ぶ。さらに、スポーツクラブ経営、スポーツマネジメント、スポーツメディア、アスリートのセカンドキャリア等についても学ぶ。なお、本授業はミズノ株式会社各部門の担当者やスポーツビジネスに携わる関係者の事例を踏まえた講義を行う。	スポーツ産業における基本的な流れを学ぶことでスポーツの職業領域を理解することができる。	CSR、開発、スポーツ施設、経営、SDGs、アパレル、広報、プロモーション			◎			◎		○
ウェルネス&スポーツ	M-HES247	200	講義	2	○	ウェルネスプログラムにより自己の姿容の方法を学修し、生活の質(QOL)の向上を追求する。	1. ウェルネスの理論に基づき、科学的な情報を適切に咀嚼し、望ましい生き方、生活習慣に修正していく積極的な姿勢を持つことができる。 2. 身体に高い関心を持ち、より客観的に自分の日常生活を評価(現在の自分の状態に気づき)、見直しができる。 3. 生涯スポーツとヘルスプロモーションについて学び、地域社会に貢献できる能力を身につける。	ウェルネス、健康、よりよく生きる、ウェイトコントロール、身体活動、休養、ライフプランニング	◎		○					

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象の原理原則を日常生活に応用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要とされるコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なスキルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスを目指しながら、アスリートやスポーツ運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度・論理的思考力を有し、グローバルな活躍ができる。
スポーツ哲学	M-HES219	200	講義	2		「体育とは何か」および「スポーツとは何か」という根本問題を、哲学的立場から明らかにするための学修を行う。	前半は体育の人間存在にとっての本質的役割を、後半はスポーツの「文化性」を理解し、多様な文化的・社会的可能性、現代の問題点を把握できる。	体育概念、関係性、重層性、超越性、文化論、スポーツ構造論		○					◎
スポーツ法学	M-HES332	300	講義	2		スポーツ固有法およびスポーツ国際法のスポーツ法の体系に則しながら、スポーツ法に関する各種関係を学修する。	社会制度の基礎となっているスポーツ法の基礎知識を習得、スポーツに関する諸事象、諸課題を法的側面から理解できる。	スポーツ法、法的責任、スポーツ基本法、紛争解決制度、スポーツ国際法				○			◎
体育史	M-HES220	200	講義	2	○	近代を中心に体育・スポーツ史上の主要な出来事や人物を取り上げ時代的、地域的特徴を学修する。	歴史上の主要な出来事や人物について理解できる。それらを踏まえ、現代の体育・スポーツの諸問題について考察できる。	国民国家、近代体育、学校体育、近代スポーツ、戦時体制化の体育・スポーツ			○		◎		
生理学	M-HES111	100	講義	2	○	ヒトの細胞や組織、筋や脳神経等の各器官の役割や機能を学び、健康な人体の生理機能について学修する。	細胞や組織、筋や脳神経等の各器官に関する人体の基本的な生理機能について説明できる。	人体の機能・役割、細胞、ホメオスタシス、代謝、神経と筋、感覚、呼吸循環、消化吸収	◎	◎		○			
実践スポーツ英語	M-ENG302	300	講義	2	○	スポーツと言う世界共通のエンターテイメントプログラムを教材にして親しみやすく分かり易い英語学習をする。	スポーツ関連の英文の読解、発話の練習、映像・音声等を教材にして、海外で活躍することを目指す選手が身につけておくべき英語力を涵養できる。	スポーツ英語、英文読解、発話、内容についての議論					◎		○
学校保健	M-HES306	300	講義	2	○	教員免許状(保健体育科)取得を目指す学生の必修科目であり、学校保健活動に関する基礎的事項やマネジメントなどについて学ぶ。	内容理解、関連資料の活用、グループワークでの発言や進行、教育実習等や実際の学校現場において、理解したことを活用できるレディネスを身につける。	学校保健、保健体育教師、資質能力、健康教育、理論と実践			◎	○			
スポーツ社会学Ⅰ	M-SOC101	100	講義	2	○	スポーツを様々な視点から捉え、基礎となる構造や現状、技術を学習し、特徴と意義を理解する。	スポーツの基本的構造や現状を理解し、社会学的に考察できる。以後の学習に繋げる知識や技術を得る。	スポーツの歴史、スポーツの意義、スポーツの特徴、社会の中のスポーツ	◎	○		○			○
スポーツ運動学	M-HES318	300	講義	2	○	本講義ではまず運動という現象の特性を理解し、そして運動の構造、運動の観察の仕方、さらに運動の学習過程について学ぶことにより、運動指導を分かりやすく、また効果的に行うための基盤となる知識、考え方を習得する。	1.スポーツの様々な運動について、運動構造の分析の視点と、運動観察の視点を理解できる。 2.運動構造と運動観察に基づき、自身が習得している専門科目の運動について詳細に記述し、説明することができる。 3.運動技能の学習のプロセスを理解できる。	運動指導、運動観察、動感、運動構造、運動現象、学習と位相			○		◎		○
スポーツ経営学	M-HES322	300	講義	2	○	公共・民間両スポーツ施設に着目し、スポーツ施設での経営・管理の現状を把握し、効果的・効率的なスポーツ施設の経営・管理のあり方等について学修する。	スポーツ施設の基本的な構造や現状を理解し、スポーツ施設における現状や課題を様々な観点から捉え、考察できる。スポーツ施設を経営・管理できよう知識や技術を得る。	スポーツ施設、みるスポーツ、するスポーツ、ささえるスポーツ、スポーツビジネスの特徴、運営	○		○		◎		
スポーツ教育学	M-HES321	300	講義	2		「スポーツ」を人間の文化活動におけるプレイ(遊び)として多様にとらえ、学生が自らの関心を喚起し、スポーツ教育のテーマを設定・研究していくプロセスを学ぶ。	テーマを自ら発見し、探求する手法を身につけ、他者と協力して課題をえ、学生が自らの関心を喚起し、スポーツ教育のテーマを設定・研究し、自ら意見を述べる力を身につける。	学校教育、体育、プレイ(遊び)、コミュニケーション活動における多様な営み、テーマの設定・研究のプロセス		◎	○	○			○
スポーツ医学	M-HES239	200	講義	2	○	安全で健康に運動・スポーツを実施するために、スポーツ医学を内科的・スポーツ医学的視点で理解する。主な内容として、こどもの発育発達特長、生活習慣病への運動・スポーツの有効性、スポーツ選手が起こしやすい疾病、スポーツ障害の発生、リハビリ、予防、オーバートレーニング症候群、アンチドーピングなどを学修する。	生活習慣病に対するスポーツの有益な効果、過度な使用によるスポーツ障害、さらにオーバートレーニングの心身へ異常、アンチドーピングを理解するとともに、スポーツによる利益や不利益を医学的観点から理解することができる。	発育発達特長、スポーツと各器官への内科的影響、過度な使用と内科的に影響、スポーツ障害の発生、リハビリ、予防、ドーピング		◎	◎	○			○

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別	単位数	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー									
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指すか、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
										身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象の原理原則を日常生活に応用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析し、行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスを向上させるために、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度や前導的論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。				
実技指導実践	M-SPE310	300	実技	1		授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指すか、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど											
実技指導実践	M-SPE310	300	実技	1		授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指すか、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど											
スポーツ生理学Ⅰ	M-HES114	200	講義	2	○	スポーツ・運動を遂行する時のからだの一時的变化やスポーツ・運動の継続で適応するからだの変化について、脳神経・筋肉、エネルギー代謝、呼吸・循環器、内分泌、免疫、環境などから講述すると共に、運動の強さや時間と酸素摂取量の関係を学修する。	スポーツ・運動遂行で起こる一時的变化や継続による適応機能を脳神経系・筋系、エネルギー代謝系、呼吸・循環系、内分泌系、免疫系などの生理機能面から理解し、さまざまなトレーニングに応用できる能力を養うことができる。	スポーツ運動の一時的变化、スポーツ運動の適応、脳神経、筋肉、エネルギー代謝、呼吸・循環器、内分泌、免疫、体温の変化		○	◎	◎	○						
スポーツバイオメカニクスⅠ	M-HES350	300	講義	2	○	本講義では、解剖学的及び物理学的な観点から立つ、歩くをはじめとしたスポーツ活動の基本となる行動様式について、分析する方法やその考え方を学ぶことを目的とします。	履修者は機能解剖学や物理学の視点に立って人体の構造・動作の機序を理解し、基本的な人間の動作のメカニズムについて説明できる。	てことモメントアーム、関節モーメント、立位のバランス、歩行の原理、ウェイトトレーニングのメカニクス				○							
スポーツトレーニング論Ⅰ	M-HES243	200	講義	2	○	スポーツ選手のトレーニング指導に必要な理論や実践的な方法についての基本的事項を理解することを目的とします。	履修者はスポーツパフォーマンスを向上させるための基本的な運動プログラムについて理解し、その作成ができるようになる。	ウェイトトレーニング、筋力、スピード、パワー、可動域、持久力				○							
レクリエーション論	M-HES225	200	講義	2	○	レクリエーションの意義と重要性、支援者としての具体的なかつ効果的な実践方法を学修する。	学校、地域、福祉施設などの場でのレクリエーションを実践する力、事業を計画する力を身につける。	レクリエーションの意義、支援者の態度・テクニック、アクティビティの選定、ハードルの設定、アイスブレイキング、		◎	○		◎						
冬期野外実習	M-SPE307	100	実習	1		スキーの技能を習得すると共に、技術体系や指導法、安全対策など、冬期野外活動の実践に必要な知識を学ぶ。	スキー技能の向上と技術体系を理解し、共同生活の中で、望ましい人間関係を築くことができる。	スキー技術体系、技能講習、安全対策、集団生活、クロスカントリー			◎	○	○						○
野外教育論	M-HES224	200	講義	2	○	野外教育や野外活動において、安全に楽しむための基礎知識や指導法について学修する。	野外教育の概念と目的および歴史を理解した上で、実際に野外キャンプを行う際に指導者として必要な安全管理、効果的な指導方法を身につける。	人間と自然の関わり、野外教育の歴史、キャンプ、キャンプカウンセリング、アイスブレイキング、ゲームアクティビティ		◎	○	○							
夏期野外実習	M-SPE202	200	実技	1		キャンプを安全に実施するための知識と技術を身につけ、小集団活動を通じて良好な人間関係を築くための要点を学び、一人ひとりが「良きキャンパー」となるための学習を行う。	1. キャンプを実施する上で必要となる基礎知識及び技術の習得、2. 共同生活の中で、望ましい人間関係を築く、3. 組織キャンプにおいて、生活班の指導ができる。	テントの設置、野外調理、水辺野外活動、キャンプファイヤー、人間関係を作るグループワークゲーム、自然を感じる野外ゲーム			◎	○	○						○
スポーツ科学実習：サッカー初級	M-SPE206	200	実技	1		個人の技術練習を中心に、そこで習得した技術を試合の中で発揮できるようにする学習を行う。	個人技術を向上させるとともに、チームスポーツとしてのサッカーの技術や戦術を習得できる。	サッカー技術・戦術・戦略・チームスポーツ・試合			◎		○	○					○
スポーツ科学実習：球技（バースポール型）実践	M-SPE221	200	実技	1		投・打・走・捕など、基本的な技術や戦術について学修する。	基本的な技術や戦術を学び、それらを習得する練習の具体的な方法を学修して実践できるようにする。	技術・戦術・戦略・チームワーク・コミュニケーション			○		◎	○					◎
スポーツ科学実習：ダンス	M-SPE211	200	実技	1		教育現場でダンスの授業を指導できるように、いろいろなジャンルに合わせたダンスの基礎、表現方法を学ぶ。	教育現場で体育の指導者として生徒の前で踊って見せられるくらいまでの基礎的技術を体得できる。	リラクゼーション、リズム練習、ステップ、身体表現、動きのバリエーション、創作ダンス					◎						○

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	主要科目	1. 科目の目的 授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	2. 科目の到達目標 授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	3. キーワード 学修の参考となる重要なキーワードなど	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										身体・心 理・栄養・ 技術・戦術 に関する幅広い 知識を身に付けて いる。	スポーツおよび健康 に関する自然現象の 原理原則を 実生活に 応用する立場 から科学的に 理解している。	スポーツ・ 体育・健康 に関する知識 やスキルを 専門的かつ 合理的に 活用し、社会 貢献のために 必要となる コミュニケーション 能力や行動力 を身につける ことができる。	スポーツ・ 体育・健康 に関する知識 やスキルを 専門的かつ 合理的に 活用し、社会 貢献のために 必要となる コミュニケーション 能力や行動力 を身につける ことができる。	高度な スポーツ技能 や多様な 状況に対応 できる指導 方法を身に 付け、様々な 専門家と 協働してア スリート の育成に 貢献できる 。	スポーツの パフォーマンス の向上を 目指しな がら、アス リートやス ポーツ・運 動のエキス パートとし て求めら れる高い倫 理的態度 や前向き の思考力 を有し、グ ローバルな 視点から 活躍できる。
スポーツ科学実習：テニス初級	M-SPE212	200	実技	1		On Courtの授業ではストローク・ボレー・スマッシュ・サーブなどの基本的なショットの打ち方を学ぶ。講義では、テニス用語、スコアの教え方、シングルス・ダブルスの試合方法、テニスコートにおけるマナー、テニス観戦のマナーなどを学修する。	簡単なダブルスができる程度のテニス技術を身につけ、テニスのルール、マナー、テニス界の現状・歴史を学び、テニスを通しての外交ができ、また、テニスの会話が弾む知識を得ることができる。	基本的なショットの打ち方、シングルス・ダブルスの試合方法、テニスコートにおけるマナー、テニス観戦のマナー		◎					
スポーツ科学実習：バスケットボール	M-SPE213	200	実技	1		バスケットボールの技術構造やルールを理解し、集団的技術や個人的技能を獲得し、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。	技術の構造とルールの理解、集団的技術や個人技能の実践、ファンダメンタルの実践と理解、ボールゲーム、チームスポーツの理解ができる。	チームスポーツ、ボールゲーム、技術構造、ルール、個人戦術、集団戦術		◎					
スポーツ科学実習：バレーボール	M-SPE214	200	実技	1		個人の基本的技能を身につける。ルールの理解、協調性を養い、バレーボールの特性や楽しさを体験するための学修を行う。	生涯スポーツの基盤づくり、スポーツの意義の認識、目標や課題の設定、ルールの理解およびゲーム方法の工夫、スポーツの楽しさを体験し、基本的技術の獲得ができる。	バレーボールの特性・楽しさ、技能、ルール、ゲームの工夫、生涯スポーツ		◎					
スポーツ科学実習：器械運動	M-SPE204	200	実技	1		マット、鉄棒、とび箱の各運動の基本的な技の習得を目指すとともに、段階的指導方法や練習方法を理解し、実践する。	運動構造を理解・実践し、指導できる領域に達することが必要である。同時に、授業の進め方、展開方法も習得できる。	マット運動、鉄棒、とび箱、回転感覚、空間認知能力、逆さ感覚、巧緻性、身体認識力			◎				
スポーツ科学実習：柔道初級	M-SPE208	200	実技	1		初めて柔道を学ぶ中・高校生に対する、受け身、組み方、体さばきなどの指導法を修得するための学習をする。	初めて柔道を学ぶ中・高校生に対して、安全に効果的に指導することができるようになる。	柔道衣の着方、礼法、受け身、組み方、体さばき、投げ技		◎					
スポーツ科学実習：野球初級	M-SPE216	200	実技	1		お互いが気を遣い、「楽しむスポーツ」というよりも「競技スポーツ」としての学習を行う。	ゲームに勝ったり技術が上手いということよりも、チームメイトだけではなく対戦相手への思いやりや助け合う心を養う。	心・技・体、公德心			◎				
スポーツ科学実習：水泳	M-SPE209	200	実技	1		練習方法及び指導法の習得、泳力の向上、指導能力の獲得。また健康・体力づくり、生涯スポーツとの関連を学ぶ。	4泳法の推進メカニズムの理解、泳法の習得、100m個人メドレー完泳、指導法と実践的な指導能力の獲得、水の特性の理解、水中での自己保全能力、完全管理能力を養う。	4泳法とその泳力、指導法と指導力、水の特性、水の安全、生涯スポーツ		◎					
スポーツ科学実習：陸上競技	M-SPE217	200	実技	1		様々な陸上競技の種目を実際に行い、その特性、ルールを学習する。	陸上競技の各種目のコツをつかみ、一定の水準の記録に到達する。また、安全に競技を遂行し、サポートする能力を身につけることができる。	100m走、走高跳、ハードル、リレー		◎					
スポーツ科学実習：一般体操（スポーツ基礎運動）	M-SPE219	200	実技	1		スポーツ全般に共通する基礎的な身体操作性、様々な動きを学修する。	基礎となる運動をもとに多様な身体操作性を修得、実践できるようにする。	身体認識力、空間認知能力、体操の歴史		◎					

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 その他	単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	身体・心理・技術・栄養・健康に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象を応用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスの向上を目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度、論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。
スポーツ科学実習：ゴルフ初級	M-SPE205	200	実技	1		ゴルフというスポーツの技術的な側面を基本から学ぶとともに、プレーをするうえでのマナーに関しても、指導する。	ショットやパッティングなど、多岐にわたるゴルフの基本を習得し、実際にゴルフコースでプレーできるまでのレベルの獲得を目指す。	エチケット、ゴルフクラブ、ショット、パッティング		◎			○	○	
スポーツ科学入門	M-HES116	100	講義	2	○	スポーツ科学科で開講されている科目を概観し、基礎的な内容を理解するとともに、身体・心理・栄養・技術・戦術についての幅広い教養を養う。	自分の学びたい専門領域の内容に関する基礎的な知識を習得し、適切な科目を選択できるようになる。	主題別		◎	○		○	○	
スポーツ外傷・障害	M-HES358	300	講義	2	○	スポーツ外傷・障害の定義、分類、傷害発生メカニズムやその診断、予防の理論的背景や考え方を説明し、傷害のバイオメカニクスと修復メカニクス等を学修する。	スポーツや運動を外傷や傷害を起こさず安全に行うために必要なスポーツ外傷・傷害の予防、救急処置および傷害からの回復のためのリハビリテーションに関する基礎知識を概ね説明できる。	スポーツ外傷・障害の定義・分類、発生メカニズム、競技特性の関連				○	◎	○	◎
スポーツバイオメカニクスⅡ	M-HES351	300	講義	2	○	スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ基礎を発展させ、各種スポーツ動作の分析について、そのまさやけがが発生する理由を理解することを目的とします。	基本的なスポーツ動作である投げる、打つ、走る、跳ぶ等の運動メカニズムについて説明できる。その力をさらに発展させた理論的な動きの秘訣やけがの発生メカニズムについての応用することができる。	投動作、走動作、跳躍動作、運動メカニズム					○	○	
解剖生理学演習	M-HES351	200	演習	2	○	生体の構造と機能について講義(理論)および観察や測定等から学修する。	人体模型およびサンプル標本の観察、および生体機能の測定を行い、得られた結果に考察を加えることができる。実験結果をレポートとしてまとめ、発表することができる。	人体模型の観察、スケッチ、生体機能の簡易測定、魚類の解剖	○	◎	◎	○			
スポーツ生理学Ⅱ	M-HES242	200	講義	2	○	脳神経、筋肉、エネルギー代謝、呼吸、循環、内分泌、免疫、環境などの生理的機能についてスポーツ生理学Ⅰで教授できなかった内容をより詳細に講義し、これらの生理的機能と運動技能習熟やトレーニング適応の関係を学修する。	スポーツ・運動遂行に関する脳神経、筋肉、呼吸・循環、エネルギー代謝、内分泌、免疫、環境などの生理的機能、運動技能習熟やトレーニング適応の機序をより詳細に理解し、各種スポーツ・トレーニングに応用できる能力を養うことができる。	スポーツ運動遂行、神経・筋機能や感覚機能、呼吸・循環機能、排泄機能、エネルギー代謝、内分泌機能、運動技能習熟、ホーソールトレーニング適応	○	◎	◎				
スポーツ生理学演習Ⅰ	M-HES255	200	演習	2	○	スポーツ活動に伴う生理学的応答を測定するための学修を行う。	運動中の人体の生理学的応答を測定する手法を学び、生理現象を視覚的に理解することができる。	身体、呼吸、循環、運動中の生理学的応答		◎	◎			○	
スポーツ生理学演習Ⅱ	M-HES367	300	演習	2	○	スポーツ活動に伴う生理学的応答について講義(理論)と実験から学修する。	運動中の人体の生理学的応答を測定し、解析した結果について考察することができる。実験結果をレポートとしてまとめ、発表することができる。	筋、脳、脊髄神経、運動中の生理学的応答		◎	◎	○		○	
スポーツ技術・戦術論	M-HES213	200	講義	2	○	講義・グループワーク・プレゼンテーションを通して「ベースボール型」だけでなくさまざまなスポーツ競技の歴史・ルール・技術・戦術の変遷などを理解しながら本質的な魅力を理解し獲得しようとする。	スポーツの技術的・戦術的特徴を理解して、ゲームを分析し説明できるように「競技者として、また将来の指導者としての心構えを理解し、総合的なレベルアップを目指す」「ベースボール」に必要な技術・戦術を講義・グループワーク、実験形式を通して多角的に理解し構築する。	技術・戦術・戦略・チームワーク・コミュニケーション		○		○	◎	◎	
スポーツトレーニング論Ⅱ	M-HES244	200	講義	2	○	スポーツトレーニングⅠで学んだ基礎を発展させ、各種競技スポーツにおける特性を考慮して、競技スポーツパフォーマンスを向上させるために必要な専門的なトレーニング方法の理論と実践的な方法を学びます。	履修者は各種競技スポーツ種目における体力の特性や年齢特性について理解し、その競技や年齢に応じたトレーニングプログラムを作成できるようにする。	競技特性、ピーキング、ジュニア、アスレチックトレーニング				○			
スポーツコーチング論	M-HES355	300	講義	2	○	スポーツコーチングとは、パフォーマンスの向上や勝利等の成果を目指している選手(生徒)およびチームを支援する指導者の活動の総称である。本講義では、スポーツの競技活動の一連のプロセスでコーチに求められる課題や知識を提示し、活動の様々な局面におけるコーチの役割と指導方法について学ぶ。受講生には、自身のスポーツ種目のパフォーマンスの構築を分析し、さらに目標設定や練習方法、練習計画策定のためのワークシートの作成を求める。	・競技特性をスポーツパフォーマンスの構築と発達過程から説明できる ・発達段階に応じたコーチングの要点を理解できる ・スポーツ活動の一連の過程におけるコーチングの内容と、その対処方法を理解できる。	競技力の構築 発達段階に応じた指導目標設定 トレーニング手段と方法 技術・戦術のコーチング 競技場でのコーチング			○	○	◎	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 など	単位	主要科目	1. 科目の目的 授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙っているか。	2. 科目の到達目標 授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	3. キーワード 学修の参考となる重要なキーワードなど	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康を自然現象の原理原則を応用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決ができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートへの支援ができる。	スポーツの向上から、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度、論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。
学科別専門科目	メンタルトレーニングⅠ(講義)	M-HES223	200	講義	2	○	心理スキルトレーニングの方法について、学術的背景や基礎的用法の知識や理解を深めるための学修をする。	メンタルトレーニングの必要性や実際のメンタルトレーニングの展開、具体的な心理的スキルトレーニングの技法について理解できる。	競技力の向上、メンタルトレーニングの技法の基礎、メンタルトレーニングの展開		◎	○			○
	メンタルトレーニングⅡ(演習)	M-HES334	300	演習	2	○	心理スキルのエクササイズやグループワークの実践を通して、体験的にメンタルトレーニングへの理解を深め、実践力を付けるための学修を行う。	競技者としてメンタルトレーニングを実践できるようにする。また、指導者として選手の心理的な課題に対応したメンタルトレーニングを指導できる。	心理スキルトレーニング、メンタルトレーニングプログラムの立案と実施、実践報告			○	○	◎	◎
	スポーツ心理学Ⅱ	M-HES240	200	講義	2	○	スポーツと発達、スポーツとやる気、運動行動の促進、スポーツ選手のパフォーマンス、スポーツ傷害における心理サポート、運動部活動における不適応等、身体運動やスポーツと心理の関連について幅広く取り上げて学修する	スポーツの心理学的な理解を通じて、スポーツの実践者として、あるいは指導者として、より効果的にスポーツ活動を展開したり、支援することができる素地をつくる。	運動学習、スポーツと発達、モチベーション、運動による健康の増進、心理サポート		○			◎	◎
	アスレティックリハビリテーション演習	M-HES301	300	演習	2	○	スポーツ選手が受傷後に行うアスレティックリハビリテーションについての知識と技能について学習するとともにその実践を行う。	安全で効率的なスポーツ復帰を支援できるように傷害の回復状態を評価するための手法を実践すること、及び回復段階に応じた適切な負荷の運動を処方できる能力を身につけることができる。	筋肉の触診、骨の触診、関節可動域、整形外科的テスト、筋力、運動特性、バランス				◎	○	
	アスレティックリハビリテーション論	M-HES302	300	講義	2	○	傷害を負った選手がスポーツ活動に復帰するために必要な取り組みであるアスレティックリハビリテーションについての学修をする。	スポーツ活動中に発生する主な傷害について理解できるとともに、その傷害から復帰するために必要な治療やアスレティックリハビリテーションについて理解できる。	アスリハの歴史、機能解剖、障害の発生機序、身体各部位の特性、運動特性、段階的リハビリプログラム		○				
	スポーツ栄養学Ⅰ	M-HES113	100	講義	2	○	食事・栄養の基礎を学んだうえで、スポーツと食事・栄養の関係、消化と吸収、スポーツ選手の身体組成・体格について学習する。また、競技特性に応じたトレーニング時の栄養補給法、試合や合宿時の栄養補給法、サプリメントやエルゴジェニックの摂取法について学修する。	1) 栄養素や食品、食事の基礎知識を習得し、身体活動量に応じた適切な摂取ができているか評価できる。 2) 期分け(トレーニング期、試合期、合宿期、オフ等)に応じた適切な栄養摂取法が理解できる。 3) サプリメントやエルゴジェニックの正しい知識を身につけ、必要性の有無を確認したうえで、適切に選択できる。	スポーツと栄養・食事、消化吸収、競技特性別の栄養補給法、補食とリカバリ、サプリメント、エルゴジェニック		○	◎		○	
	スポーツ栄養学Ⅱ	M-HES241	200	講義	2	○	スポーツにおける生理学的変化をふまえて、スポーツ選手が抱える問題(貧血、骨障害、摂食障害、月経障害、特殊環境下、増量と減量)について、その原因と評価、食事法を学ぶ。また、最前線のスポーツ栄養に関するエビデンスや栄養マネジメントについて学ぶ。加えて、健康のためにスポーツを行っている小児期から高齢者までのライフステージ別の栄養と身体活動に関する現状、課題と健康増進のための対策について学修する。	1) スポーツ選手が陥りやすい問題とその対処法について理解・説明できる。 2) スポーツ栄養マネジメントについて説明できる。 3) 小児期から高齢者に至るまでの食事と運動に関する問題点とその対処法を説明できる。	スポーツと貧血、スポーツと骨、スポーツと月経障害・摂食障害、暑熱環境下のスポーツ、スポーツ選手の増量・減量、栄養マネジメント、ライフステージごとの食事と運動			○	○	◎	◎
	スポーツ審判学	M-HES366	300	講義	2	○	競技スポーツにおける審判に着目し、競技特性によるルールの在り方や審判員の任務を紐解き、審判の意義を学修する。	競技別によるルールの存在意義から審判員の活動について思考を深め、資格制度や歴史について理解できるようにする。	審判、AI、公平性、測定評価、判定評価、評定評価			○	○	◎	○
	運動機能解剖学Ⅰ	M-HES108	100	講義	2	○	人体の主要な筋や骨、関節の各名称を覚え、それぞれがどのような動きを可能にしているかについて学修する。	人体の主要な骨、筋肉、および関節の名称と位置について暗記し、人間がどのようにして動きをコントロールしているか理解できる。	人体の構造・形態、筋系、骨格系	◎	○			○	○

授業科目区分	授業科目名	科目コード / ナンバー	ナンバリング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	主要科目	1. 科目の目的 授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いつけるか。	2. 科目の到達目標 授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	3. キーワード 学修の参考となる重要なキーワードなど	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。	スポーツおよび健康に関する自然現象の原理原則を、実生活に応用する立場から科学的に理解している。	スポーツ・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・健康に関する知識やスキルを専門的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。	スポーツのパフォーマンスを目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理的態度、論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。
運動機能解剖学 II	M-HES234	200	講義	2	○	運動機能解剖学 I の知識レベルを前提として、人体の筋や骨、関節の各名称を覚えるとともに、頭部の筋・骨格、さらに神経系の基礎知識を加えて展開していく。	人体の骨、筋肉、および関節の名称と位置について暗記し、人間の実際の動作中にそれぞれがどのように関与しているか理解することができる。	人体の構造・形態、筋系、骨格系、神経系。指導者として現場での必要な視点。		◎	○		○	○	
コンディショニング演習	M-HES354	300	講義	2	○	目的に応じたコンディショニングプログラムを作成、実践することを通じて、指導に必要な実践能力を養成する。	・解剖学、生理学、バイオメカニクス、トレーニング論の理論に則ってプログラムを考案し、かつ実践することができる。 ・コンディショニングのための基本的なエクササイズを指導することができる。 ・種目特性に応じたトレーニングプログラムを作成することができる。	プログラムデザイン、エクササイズの実践、エクササイズの指導、競技特性、測定評価			○	○	◎	○	
スポーツ用具論	M-HES368	300	講義	2	○	様々な競技で利用されているスポーツ用具の構造や材料などの性能と、身体能力と使用する用具との関係について理解する。	選手の身体特性に合わせた適切な用具を選択できるようになる。	スポーツ用具、締結、材料、構造		○	○		○	○	
スポーツ科学実習：サッカー中級	M-SPE207	200	実技	1		個人から、グループ戦術へと発展させ、グループでの攻撃と守備を学ぶ。	攻撃で致的優位を作りゴールを奪い、守備は相手にスペースを与えずボールを奪えるようになる。	サッカー・個人技術・グループ戦術・攻撃・守備・戦略			○	○	◎	○	
スポーツ科学実習：ゴルフ上級	M-SPE303	300	実技	1		実際にゴルフコースでプレーできるレベルから、さらに発展してコースでのレベルアップを図ることを目的とする。単にプレーするのではなく、よりよいスコアを念頭に置いた指導をする。	ショットやパットの基本から、実際にコースで起こり得る状況にいかに対応するべきかを想定して練習する。	ショット、ミドルアイアン、ロングアイアン、ユーティリティ、フェアウェイウッド、ショートゲーム			○	○	◎	○	
スポーツ科学実習：テニス上級	M-SPE305	300	実技	1		上級の授業では、ストロークやボレー等の技術に磨きを掛けるとともに、シングルスやダブルスの戦法を学ぶ。また、アイフューメーション、グライブレスシステムなどの専門用語の理解を深め、実際にコートで実習する。	生涯スポーツとして継続できる程度に技術を上げる。シングルス、ダブルスの試合方法を習得し、トーナメントを開催する。テニスを通して自分を律することを学ぶとともに、歴史、ルール、マナー等、テニスを語ることのできる知識を身につける。	コースの打ち分け、トップスピン回転とスライス回転、スライスと同じフットワークからのドロップショット、ドロップボレー、ドライブボレー、ダブルスのボレーの練習			○	○	◎	○	
スポーツ科学実習：柔道上級	M-SPE304	300	実技	1		柔道初級を発展させて、より効果的な技の連絡変化などを学ばせ、その指導法を身につけるための学習を行う。	柔道初級を発展させて、さらにレベルの高い技術を習得し、それが指導できるようになる。	受け身、組み方、体さばき、投げ技、固め技、押さえ技、締め技			○	○	◎	○	